

【経営学研究科】

修了認定・学位授与の方針[ディプロマ・ポリシー]

1. 修士課程においては、経営学分野における高い専門性と倫理観、国際的視野を持った研究者及び高度専門職業人の養成を目標とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力を身に付け、本研究科の各専攻の定める所定の単位を修得し、かつ、修士の学位論文の審査並びに最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、修士（経営学）を授与する。
 - (1) 経営学及びその関連分野についての高度な専門知識。
 - (2) 経営学及びその関連分野における研究能力。
 - (3) 修得した高度な専門知識・研究能力と教養をもとに、自ら課題を発見・設定し、解決する能力。
 - (4) 正しい倫理観を持ちつつ、修得した高度な専門知識・研究能力と教養をもとに、積極的に他専門分野あるいは他文化に属する人々と協働できる能力。
2. 専門職学位課程においては、技術経営分野における高い実践的な専門性と倫理観、国際的視野を持ち、社会(産業界等)の急速な変化に敏速かつ革新的に対応し、社会を牽引することができる高度専門職業人である起業家・CXO ※育成を目標とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力を身に付け、本研究科の定める所定の単位を修得した学生に対して修了を認定し、技術経営修士(専門職)を授与する
※CXO : CEO、COO、CTO、CFO などの企業活動における業務や機能の責任者の総称
 - (1) 技術経営及びその関連分野についての高度な専門知識。
 - (2) 技術経営及びその関連分野における実務実践能力。
 - (3) 修得した高度な専門知識・研究能力と教養をもとに、自ら課題を発見・設定し、解決する能力。
 - (4) 高い倫理観を持ちつつ、修得した高度な専門知識・実務実践能力と教養をもとに、積極的に他の専門分野又は他の文化に属する人々と協働できる能力。
3. 博士後期課程においては、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持ち、あらゆる研究・教育機関の中核を担う研究者等の養成を目標とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力を身に付け、本研究科の定める所定の単位を修得し、かつ、博士の学位論文の審査、試験、学力確認のための試問に合格した学生に対して修了を認定し、博士（経営学）を授与する。
 - (1) 経営学及びその関連分野についての極めて高度な専門知識。
 - (2) 経営学及びその関連分野について研究者として自立して研究活動を行う能力。
 - (3) 修得した極めて高度な専門知識や研究能力をもとに、柔軟な思考と深い洞察に基づいて、自ら課題を発見・設定し、独創的に解決する能力。
 - (4) 正しい倫理観を持ちつつ、修得した極めて高度な専門知識や研究能力をもとに、専門性を要する分野において、積極的に他専門分野あるいは他文化に属する人々と協働できる能力。

教育課程編成・実施の方針[カリキュラム・ポリシー]

1. 修士課程においては、学士課程で養った教養、基礎学力、専門知識を基礎として、さらに「専門科目」「一般教養科目」「研究指導」により、本研究科の定める目的を実現するための教育課程を編成する。
 - (1) 「専門科目」では、より高度な専門的知識を身に付けるため、特論、演習等の授業科目を重点的・効果的に配置する。
 - (2) 「一般教養科目」では、正しい倫理観と、幅広くかつ深い学識を涵養する授業科目、コミュニケーション能力・国際性等を養う授業科目を配置する。
 - (3) 研究指導の過程では、国内外の文献の調査、指導教員等研究者との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、自身の研究成果を正確かつ効果的に表現する力、専門性を要する研究開発力、及び課題解決力を高め、研究者又は高度職業人として国内外で国際的な視野を持って活躍できる能力を育成する教育を行う。
2. 専門職学位課程においては、多様なバックグラウンドを持つ学生に対して、高い職業倫理を備え、高度専門職業人として課題を発見して解決へ導くことのできる人材を育成し、理論と実践の融合を図り、社会ニーズ・シーズに答える教育課程を『東京理科大学専門職大学院教育課程連携協議会』と連携し、開発・編成・実施する。
 - (1) 「授業科目」では、より高度な専門的知識を身に付けるため、分野区分を設けて重点的・効果的に科目を配置する。
 - (2) 「演習科目」では、指導教員の下に文献調査、企業訪問、各種インタビュー等を実施し、調査・分析能力、問題発見能力、問題解決能力、構想力、プレゼンテーション及び論文による表現能力を養成する科目を配置する。
 - (3) 演習指導の過程では、高度職業人として国内外で国際的な視野を持って活躍できる能力を育成する教育を行う。
3. 博士後期課程においては、修士課程で養った高度な専門的知識や研究開発能力を基礎として、さらに「専門科目」「研究指導」により本研究科の定める目的を実現するための教育課程を編成する。
 - (1) 「専門科目」では、より高度な専門的知識を身に付けるため、特論、演習等の授業科目を重点的・効果的に配置する。

- (2) 研究指導の過程では、国内外の文献の調査、指導教員等研究者との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、自身の研究成果を正確かつ効果的に表現する力、専門性を要する研究開発力、及び課題解決力を高め、専門分野に関して自立した高度職業人として、国内外で国際的な視野を持って活躍できる能力を育成する教育を行う。

入学者受入れの方針[アドミッション・ポリシー]

建学の精神と実力主義の伝統に基づき、本学の教育研究理念のもと、

1. 修士課程においては、学士課程で修得した基礎学力と幅広い教養をもとに、専門分野で自ら課題を発見し解決する研究意欲のある人、研究者又は高度職業人に必要な能力の修得を目指す人、主体的に多様な人々と協働して研究を行う意欲のある人。
2. 専門職学位課程においては、専門分野で高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を身につけようとする人、専門分野で自ら課題を発見し解決する意欲のある人、高度職業人に必要な能力の修得を目指す人、主体的に多様な人々と協働して学習・研究を行う意欲のある人、専門知識や学識及び能力をもとに社会において国際的な視野を持って活躍しようとする意欲のある人。
3. 博士後期課程においては、修士課程や専門職学位課程までに修得した専門知識と研究能力をもとに、自立して創造的研究を行う意欲のある人。
4. 専門知識や教養をもとに、社会において国際的な視野を持って活躍しようとする意欲のある人。

を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(一般入学試験)

本研究科の特性に見合う専門知識、英語力、思考力及び表現力をもち、自ら研究を行う態度のある人を、修士課程においては書類審査、筆記試験（経営及び関連分野の専門科目、外国語）、資格・検定試験の成績、面接等により選抜し、専門職学位課程においては書類審査、面接等により選抜し、博士後期課程においては、書類審査、筆記試験（経営及び関連分野の専門科目、外国語）、修士論文についての口頭試問等により選抜する。

(推薦入学試験)

修士課程において、本学の各研究科・専攻の特性に見合う専門知識、英語力、思考力及び表現力をもち、自ら研究を行う態度のある人を、書類審査、小論文、面接等により選抜する。

(社会人特別選抜、外国人留学生入学試験)

研究機関又は企業等で得た経験、学問に対する姿勢や考え方、海外で身に付けた能力を持つ人を、修士課程においては、書類審査、筆記試験（経営及び関連分野の専門科目、外国語）、面接等により選抜する。専門職学位課程においては一般入学試験が主として社会人を対象としたものであるため、とくに社会人特別選抜や外国人留学生入学試験を行わない。博士後期課程においては、書類審査、筆記試験（経営及び関連分野の専門科目、外国語）、修士論文についての口頭試問等により選抜する。